

西光

第 16 号

百橋山 西光寺

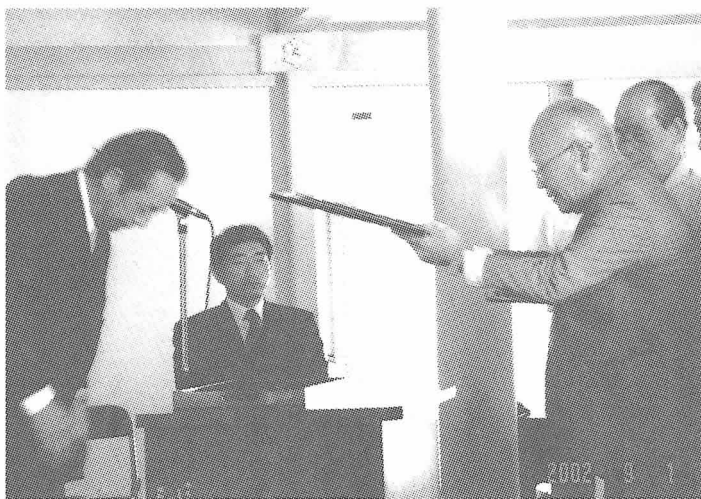
高岡市京町一〇一・二五
電話 (〇七六六) 二二・二九七
FAX (〇七六六) 二二・三二七〇
平成十四年九月二十三日

新御堂竣工

平成十三年四月に着工した本堂と庫裏の再建工事は、同年八月には棟上げを行い、順調に工事が進行し、庫裏は十一月に一応完成し、年末の十二月には入居できました。一方御堂は、冬の間に屋根の野地板を打ち、二月には能登の珠洲で焼いた鬼瓦(古代鬼)を上げて、三月には瓦葺きが終了しました。そのために懸けられていた足場も外され、大きく羽根を広げてそびえ立つ鳳凰のような優美な姿は近隣の人々の目を驚かせるようになりました。夏にかけて内部の造作もすみ、床板や壁、天井の工事が続きました。七月には長慶寺の西島好司方より寄付を戴いた櫓でもって敷かれた縁板にはうぐいす張りが施されて評判になりました。うぐいす張りについては、京都知恩院の国宝の書院の廊下のうぐいす張りが有名ですが、その仕組みについて、京都府教育委員会文化財保存課のお世話になり、酒井棟梁と共に、現地で床下にもぐって教えていただきました。やがて八月には開閉部の建具も取り付けられ、最後に正面の階と高欄が取り付けられて、立派な雄姿をもつ西光寺新御堂の外観は完成をみたわけです。堂の内外の木材の汚れ防止と紫外線や風雪による湿気からの保護のための塗布も京都の寺社の例を参考にしています。さらに内部の電気工事や金具の取り付けも同時進行で引き続いて行われ、宮殿や欄間は元の本堂のものが再び使用されて戻されました。最後に畳が敷かれてほぼ工事は終了しました。そこで、九月一日に、この間の工事関係者の労苦に感謝し、工事の無事終了を喜び、西光寺新御堂(阿弥陀堂)の完成を慶祝し、一応の竣工式を執り行いました。工事関係者を代表して大工棟梁の酒井匠四代目酒井仁義氏に感謝状が、向井英二建設委員会委員長から手渡されました。新に竣工の棟札が棟木に打ち据えられました。まだ渡廊下などの付帯工事は残しており、内陣の飾り付けや、さらに周辺の植生など、しばらく工事が続行される予定です。竣工記念としてお配りした木片は、今度新御堂に用いられたアラスカ産くさまきの残材です。芳しい香りが致します。一方で今後の伽藍の維持管理が重要な課題として浮上しております。火災などはもとより、風雨、風雪から、いかに再建なった西光寺阿弥陀堂の美しい姿を護り、維持するか、大きな課題を負うことになります。百年、二百年、三百年と、後世に護り伝えてゆかねばならないわけです。

新御堂建立日誌(続)

平成十三年 十一月三十日 庫裏内見会
十二月十二日 庫裏入居
平成十四年 一月五日 新年会
二月二十八日 鬼瓦葺終了
三月八日 瓦工事完了
三月十六日 足場撤去
三月二十四日 建設委員会、世話人会
八月十日 阿弥陀堂外観工事終了
八月十三日 建築確認検査終了
八月二十八日 消防検査終了
八月二十九日 宮殿搬入
八月三十日 畳敷
九月一日 建設委員会、世話人会、竣工式
十月八日 遷佛報恩講(内見会)



竣工式～感謝状贈呈



宮殿・欄間搬入



竣工棟札



西光寺阿弥陀堂全景

遷佛報恩講

毎年十月八日・九日は西光寺恒例の報恩講ですが、本年は九月に一応御堂の竣功はみたものの、未だご本尊は還御されておらず、しかも落慶法要は来年春と決定しており、それまでご本尊がご不在では、折角完成した新御堂も門信徒一同に見て頂く機会がありませんので、そこでご本尊には早々にお帰りをいただき、簡素ではあるが、一応報恩講だけは執り行いたいと考えております。遷佛式を兼ねて、また新阿弥陀堂の内見会も兼ねて、十月八日の一日だけではありますが、報恩講を厳粛に執行することと致しました。

お知らせ（献灯提灯の受付）

新装なった光り輝く阿弥陀堂に、皆様からのお灯明をお寄せ下さい。来春の落慶法要はもとより、今後の報恩講などに掲げます。

ご依頼

平成十一年三月の世話人会における発議から始まった西光寺本堂再建は、はや足かけ四年の歳月がたちました。この間の成果は、ご門徒各位のご尽力による物心両面でのご協力の賜ですが、なおこの成果を確たるものにするため、さらに西光寺門信徒にご縁を頂く多くの方々にご協力の輪を広げ、一層の結集をお願い致します。何百年に一度の仏縁に至る功德の機会とご理解を賜り、ご勧進をご依頼申し上げます。

縁起立札

新御堂の脇に西光寺の縁起を記した立札を立てました。今までの門（西門）にも懸けました。裏口（東門）にも懸ける予定です。

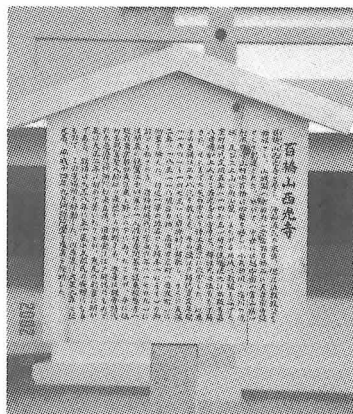
落慶法要までの予定

- | | |
|-------------|--------------|
| 十月八日 | 遷佛報恩講 |
| 十一月八日 | 法話会 |
| 十一月二十七日 | 御正忌 |
| 一月一日・二日 | 修正会 |
| 一月八日 | 法話会 |
| 三月八日 | 法話会 |
| 三月 | 建設委員会、世話人会 |
| 四月八日 | 法話会 |
| 五月八日 | 法話会 |
| 五月三十一日・六月一日 | 落慶法要（稚児行列など） |

西光寺新御堂に寄せる歌 三首

西光法師作

旅終えて 帰り来たれば 新らしき 西の御堂は 美しくかりけり
西の方 帰る心も 香しく 光り輝く 阿弥陀堂かな
報恩の 謝徳の人々 限りなく 弥陀の光を 永久にたたえん



縁起立札